同線

六十ぢの人の縁のもとゐ
うけむけの月日とゐ
伏羲氏ゐ八卦紀年
八代ゐ八卦ゐ卦ゐ
男女ゐ
男女ゐ
女子ゐ
女人ゐ
女人ゐ
女人ゐ
年ゐ
ゐ
ゐ
人ゐ
ゐ
ゐ

代ず本尊（下）

ひつじのとし

大日如来

さるのとし

ふげん菩薩

ゆまのとし

せいしほさつ

男　ねろくろ　ひまさるいぬ

男　うしたつ　ひつじ

男　ねとらうさぎ　ひつじさるいぬ

上

ほ	に	は	ろ	い	ち	と	へ	ほ	に	は	ろ	い	ち	と	へ	ほ	に	は	ろ	い	ち	と	へ
十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十九	十八	十七	十六	十五	十四
と	ち	い	ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	い	ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	い	ろ	は	に	ほ	へ
十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十九	十八	十七	十六	十五	十四
は	に	ほ	へ	と	ち	い	ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	い	ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	い	ろ
十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十九	十八	十七	十六	十五	十四
ほ	に	は	ろ	い	ち	と	へ	ほ	に	は	ろ	い	ち	と	へ	ほ	に	は	ろ	い	ち	と	へ
十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十九	十八	十七	十六	十五	十四
と	ち	い	ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	い	ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	い	ろ	は	に	ほ	へ
十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十九	十八	十七	十六	十五	十四
は	に	ほ	へ	と	ち	い	ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	い	ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	い	ろ
十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十九	十八	十七	十六	十五	十四

ふぐうけんさく

ねのとし

八まん大ぼさつ

ぜんだん

ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	り	ぬ	る	を	わ	か	よ	た	れ	そ	つ	ね	な	ら	む	う	ゐ
十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五
ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	り	ぬ	る	を	わ	か	よ	た	れ	そ	つ	ね	な	ら	む	う	ゐ
十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五
ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	り	ぬ	る	を	わ	か	よ	た	れ	そ	つ	ね	な	ら	む	う	ゐ
十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五
ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	り	ぬ	る	を	わ	か	よ	た	れ	そ	つ	ね	な	ら	む	う	ゐ
十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五
ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	り	ぬ	る	を	わ	か	よ	た	れ	そ	つ	ね	な	ら	む	う	ゐ
十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五
ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	り	ぬ	る	を	わ	か	よ	た	れ	そ	つ	ね	な	ら	む	う	ゐ
十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五

紀のとら

こうぞううのとら

めんぎゅうとら

上えの生れは永の流れ七きのそのうち下まつり百八十年みて処吉子元甲子上えいぬ亥ゆ代八卦をこの取上えとろ月ちゑむ

男	女
下の生れねうしぬのどんは十二ゑいろはにほへこちらのとらたのどんはにほへいちとろ	上の生れねうしぬのどんは十二ゑいろはにほへこちらのとらたのどんはにほへいちとろ
下の生れねうしぬのどんは十二ゑいろはにほへこちらのとらたのどんはにほへいちとろ	上の生れねうしぬのどんは十二ゑいろはにほへこちらのとらたのどんはにほへいちとろ

ち	正十又	ち	正十又	に	正十又	に	正十又	ち	正十又	に	正十又	ち	正十又	に	正十又	ち	正十又	に	正十又	ち	正十又	に	正十又
い	正十六	と	正十六	ほ	正十六	へ	正十六	と	正十六	ほ	正十六	と	正十六	ほ	正十六	と	正十六	ほ	正十六	と	正十六	ほ	正十六
ろ	正十七	へ	正十七	と	正十七	と	正十七	へ	正十七	と	正十七	へ	正十七	と	正十七	へ	正十七	と	正十七	へ	正十七	と	正十七
に	正十八	ち	正十八	へ	正十八	ち	正十八	ち	正十八	へ	正十八	ち	正十八	へ	正十八	ち	正十八	へ	正十八	ち	正十八	へ	正十八
ほ	正十九	は	正十九	ち	正十九	は	正十九	は	正十九	ち	正十九	は	正十九	ち	正十九	は	正十九	ち	正十九	は	正十九	ち	正十九
へ	又十	ろ	又十	は	又十	ろ	又十	ろ	又十	は	又十	ろ	又十	は	又十	ろ	又十	は	又十	ろ	又十	は	又十
と	又十一	い	又十一	ろ	又十一	い	又十一	い	又十一	ろ	又十一	い	又十一	ろ	又十一	い	又十一	ろ	又十一	い	又十一	ろ	又十一
ち	又十二	ち	又十二	い	又十二	ち	又十二	ち	又十二	い	又十二	ち	又十二	い	又十二	ち	又十二	い	又十二	ち	又十二	い	又十二
い	又十三	と	又十三	ち	又十三	と	又十三	と	又十三	ち	又十三	と	又十三	ち	又十三	と	又十三	ち	又十三	と	又十三	ち	又十三
ろ	又十四	へ	又十四	と	又十四	へ	又十四	へ	又十四	と	又十四	へ	又十四	と	又十四	へ	又十四	と	又十四	へ	又十四	と	又十四
は	又十五	ほ	又十五	へ	又十五	ほ	又十五	ほ	又十五	へ	又十五	ほ	又十五	へ	又十五	ほ	又十五	へ	又十五	ほ	又十五	へ	又十五
に	又十六	に	又十六	ほ	又十六	に	又十六	に	又十六	ほ	又十六	に	又十六	ほ	又十六	に	又十六	ほ	又十六	に	又十六	ほ	又十六
ほ	又十七	は	又十七	に	又十七	は	又十七	は	又十七	に	又十七	は	又十七	に	又十七	は	又十七	に	又十七	は	又十七	に	又十七
へ	又十八	ろ	又十八	は	又十八	ろ	又十八	ろ	又十八	は	又十八	ろ	又十八	は	又十八	ろ	又十八	は	又十八	ろ	又十八	は	又十八
と	又十九	い	又十九	ろ	又十九	い	又十九	い	又十九	ろ	又十九	い	又十九	ろ	又十九	い	又十九	ろ	又十九	い	又十九	ろ	又十九
ち	六十	ち	六十	い	六十	ち	六十	ち	六十	い	六十	ち	六十	い	六十	ち	六十	い	六十	ち	六十	い	六十
い	六十一	と	六十一	は	六十一	と	六十一	と	六十一	は	六十一	と	六十一	は	六十一	と	六十一	は	六十一	と	六十一	は	六十一

ふくとく
福徳
宇賀神

五月

てんい
天醫
牛頭天王

六七月

ゆうこん
遊魂
大黒天

八月

くわい
禍害
兵武神

九十月

せいけ
生家
王女神

十二月

ゆうこん
遊魂
大黒天

八月

くわい
禍害
兵武神

正月

せいけ
生家
王女神

二月

ふくとく
福徳
宇賀神

三四月

せいかつ
日々
吉凶
月

うし
ひつじ
とむま

ひつじ
いぬい
ねうま

卦あらはしこれ人ふかくひてをるものこそ
のこそうるはしけれ世三夜をもつて若はしまを
せんとするのせいかつ人もまるうしろ
ひつじ
ひつじ月はあり此月なり
ゆるひつつひてもあり
此月に生家はあり家をもつて
ものをもつてはいかくせつ
此月のうちとてはいかくせつ
をもるひかちつとびひ
さるひあれ

ゆうねん
遊年
大歳神
五月

ゆうこん
遊魂
大黒天
六月
七月

てんい
天医
牛頭天王
八月

ぜつめい
絶命
八荒神
九月
十月

ぜつたい
絶体
当年星
十一月

八月
大日如来
うしとら
月
ひつじさる
月
いぬい
月
ねうま
月

ぜうけ
生家
王女神
正月

ぐうい
禍害
兵武神
二月

てんい
天医
牛頭天王
三月
四月

遊魂 大黒天 五月

六月 遊年 大歳神

福徳 宇賀神 八月

絶体 當年星 九月

絶命 大荒神 十月

一月

月 日 月 日

絶体 當年星 正月

絶命 大荒神 二月

遊魂 大黒天 三月

四月

天殿酉 牛頭天王 五月

福徳 宇賀神 六月

遊年 大歳神 八月

生家 玉女神 九月

禍害 兵武神 十一月

十月 八幡大菩薩 食

天醫 牛頭天王 二月

福徳 宇賀神 十二月

禍害 兵武神 三四月

絶命 大荒神 五月

五月はぜんにんのわるいとしにあたるとしもあるのはいとうのあるとしにあたるものはいとうのあるとしにあたるものはいとうのあるとしにあたるもの

ぜつたい
絶体
当年星

五月

ぜつめい
絶命
大荒神

六月 七月

くわい
禍害
兵武神

八月

ゆうこん
遊魂
大黒天

九月 十月

ゆうねん
遊年
大歳神

十一月

ひつじさる
三月
きらい
日

ひつじさる
日
ひのえいぬ
ひのとひつじ
ひてもよろし

ひのえさる日
ひのとひつじ
ひてもよろし

ひのえさる日
ひのとひつじ
ひてもよろし

ひのえさる日

禍害 兵武神 — 五月

月はじめ、ぶんぶんとうるさく、ぶんぶんとうるさく、ぶんぶんとうるさく

生家（せうけ）
玉女神

五月

月にせうけにあたるものは、ものをもとめるに、ものをもとめるに、あるものは、ものをもとめるに、ものをもとめるに、ものをもとめるに

絶

天下にたゝる生活人のうらいてうは此ひとりとなれば
いまは生まれてはうつるひのそこにてはうつるひのそこ
おこの▲えるひにあくさきつ者あり生さのうれ
えるなるべく後に生まれ者あり此絶人ハ
て納て分うやまつて大にたゝれ其人分ハ
うるべし
おこ▲ひとのうらにおそのはいものがくさとそこむてうろのうり

帝

ひけんちんにて体祈つて表出家ふるのうちにけいひんくとはの和にて
つろうろ男女共の対上宮あげにたんさみてしむあけのたれ
のそうろ者▲ひとうりとのうこにさきれいまうたの和のあれ
ゆりこのんぐもつてひとそんさ男のひすさ他人の恢をそひむ
たてうろ他人ひとつてあるひすそ者うろ
おこ▲まひ人ふうひんもあてのといのまさにうあいさうけり

衰

ひとり一ちうふうのふ代りんのくあいひ
ちんぐのれどとあ一で他人のひをあ
おこ▲そうそ人ハまさてゆそ

病

出家ハうそうさいひハ生れるあてい
れうて活ひうらうしうそ子びううあう
おすうて之
おこ▲うそ人のこれ者とうく
ひさひして者ゆえさ他ときうあふる
あてはさいひさ子にうらうなてぐそれ
あれ者
おこ▲ちあ者この子にうう

死

さ者ハ人のいかをそ一ぐうう
ちうそれ者ハ
おこ▲ちうそ人ハまさてゆそ
ちうのちのとのとうり

墓

ひとりこさくの内ゆしみのうのみてふあ
れうて活ひうらうしうそ子びううあう
おすうて之
おこ▲うそ人のこれ者とうく
ひさひして者ゆえさ他ときうあふる
あてはさいひさ子にうらうなてぐそれ
あれ者
おこ▲ちあ者この子にうう

胎

ようそとさあのひうるひのそこにて地
ちうの活人ハ中まとたんんしゅうう
うるれ者
おこ▲いのはこのそうそ
他人ふ一春の中ゆしひうるうそうう
ひさいうるれんしもどうそ父母
おこ▲中ゆひの母ふうれさ

養

人の性によりて男女あのちがうよしあーの事

男木性ハ

金性土性の女ハ男ハ
ちゃんゆうのうして
ゆえ一火性の性の女ハ木性の女ハ
水性金性の女ハ万ふあくせうすみてふ
ひうふにひのまーふさめるのくせ
みて一木性土性火性の女ハ万にのーさ
性金性土性の女ハ万にのーさ
やうのうくせてふうふうふ
の中いでき一人ちんあいろ

同火性ハ

木性火性の女ハ万にて代ふう
まのひうくひをるのりの
あるべーまんぐにて表性

同土性ハ

ふ性金性木性の女ハ万にはの
くひんなうしてふたくちうそんふ
あーさうそちんぐうう

同金性ハ

ふ性金性木性の女ハ万にはの
くひんなうしてふたくちうそんふ
あーさうそちんぐうう

同水性ハ

ふ性金性木性の女ハ万にはの
くひんなうしてふたくちうそんふ
あーさうそちんぐうう

はにようて男女あんあるぞ事

女にあんあるぞ男　きのえう　こうのえね　うのえうま　はちまんぐうじ
ひのえいま　つちのえね　かのえうま　多んとくむだうぐ

女人さんのは男子女子あるぞと事

▲女十三　十五　十七　十九　廿三　廿五　廿六　廿七　廿八　三十三　三十六　三十八　四十二　五十五
右ぜうの人ハ二ゆるハ男一ゆるハ女ゆるべ　ちぐさゆるべ
▲女十四　十六　十八　二十　廿一　廿二　廿四　廿五　廿七　廿九　三十一　三十四　三十五　三十七
右ぜうの人ハ二ゆるハ女一ゆるハ男ゆるべ　おやそさいれ
ぜんかとあるぞ女子を万一ゆうもるるぞ　ようくうてこの

女の年ゆてうんゆんとる月日と事

十三　十六　十九　廿二　廿五　廿八　三十一　三十四　三十七　四十　四十三　四十六　廿日　廿八日　廿三日　廿日　廿八日　廿三日
十四　十七　十一　廿三　廿六　廿九　三十三　三十五　三十八　四十一　四十四　四十七　廿一日　廿九日　廿四日　廿一日　廿九日　廿四日
十五　十八　廿一　廿四　廿七　三十　三十三　三十六　三十九　四十二　四十五　四十八　廿二日　廿十日　廿五日　廿二日　廿十日　廿五日
正月　二月　三月　四月　五月　六月　七月　八月　九月　十月　十一月　十二月
ひのえね　ひのとうし　かのえとら　きのえう　つちのとみ　かのえうま　かのとひつじ　きのえさる　ひのとのとり　つちのえいぬ　かのえこ　きのとうし
正月　二月　三月　四月　五月　六月　七月　八月　九月　十月　十一月　十二月
ひのえね　ひのとうし　かのえとら　きのえう　つちのとみ　かのえうま　かのとひつじ　きのえさる　ひのとのとり　つちのえいぬ　かのえこ　きのとうし
正月　二月　三月　四月　五月　六月　七月　八月　九月　十月　十一月　十二月
ひのえね　ひのとうし　かのえとら　きのえう　つちのとみ　かのえうま　かのとひつじ　きのえさる　ひのとのとり　つちのえいぬ　かのえこ　きのとうし

さんのとうたむふ方ぜの
かろふ月ぜの
かとしてはぬ
月のるの
ぜとくりべ
うつうさる日
かとのそのとき
ゆむ方
わうーしゐ
うそむうふ方
人の病とうそ
ぐうたれス日
こうまうゆん
ぜんへ月

正月ひのえ二月いぬ三月ひのとうし四月かのえとら五月きのえう六月つちのとみ七月
ひのえうま八月かのとひつじ九月きのえさる十月ひのとのとり十月つちのえいぬ十二月かのえこ
正月ゆうろ二月ゆうろ三月ゆうろ四月ゆうろ五月ゆうろ六月ゆうろ七月ゆうろ
右ぜうとのそれば二ゆうひろうもど用ゆべうる
九月さる　十月ひのえ　十月むま十二月こ
右ぜうのるの　ゆうろたけしむべーしく
右ぜうこそ三ゆうろあて歩べーさいゆんゆあうろのみ
春ハうの方　夏ハひつじの方　秋ハいぬの方　冬ハうしの方
右ぜうの方にむひこそうあてきりうこゆ
正月ひのえ　二月きのえ　三月いぬ　四月いぬ　五月ひのえ　六月ひのえ　七月いぬ
八月うろ　九月ひのえ　十月ゆうろ　十二月ゆうろ　十月ゆうろ
正月むま　二月うろ　三月ね　四月うろ　五月むま　六月ひのえ　七月ね　八月うろ
九月むま　十月うろ　十月いぬ　十二月ね　右ぜうのるの　人の方かれ

潮満干之圖

七月中と十月中は万病に悪日と男女共に忌事

九月中は吉

羅計火

此日は何事にも用ひる事

金日星

此日は何事に用ひる事

土月星

此日は何事に用ひる事

木水星

此日は何事に用ひる事

卯	小	大	小	大	小	大	六
辰	宿	吉	九	十	吉	朝	五
巳	昏	吉	日	日	吉	夕	四
午	旨	吉	日	日	吉	言	九
未	旨	吉	日	日	吉	言	八
申	旨	吉	日	日	吉	言	七
酉	旨	吉	日	日	吉	言	六
戌	旨	吉	日	日	吉	言	五
亥	旨	吉	日	日	吉	言	四
子	旨	吉	日	日	吉	言	九
丑	旨	吉	日	日	吉	言	八
寅	旨	吉	日	日	吉	言	七

判形相生吉凶事

木性 九つ	火性 三つ	土性 一つ	金性 五つ	水性 七つ
吉	吉	吉	吉	吉
三つ	四つ八つ	一つ	七つ	五つ
凶	凶	凶	凶	凶
一つ三つ	一つ	五つ	三つ	九つ

人の名の字の五性相生吉凶

木	火	土	土	金	水	土	水	木	火
吉	凶	凶	吉	吉	凶	吉	吉	凶	凶
義	功	而	笑	安	室	仁	恵	欠	九
平	仁	俊	義	熟	治	六	義	史	思
健	卯	茶	右	和	惣	矢	太	沼	思
八	共	房	尤	乙	右	沼	重	鉄	理
権	成	郷	角	虎	衛	鉄	理	壬	徒
門	秋	巴	丸	虎	門	壬	中	竹	利
孫	昌	子	加	幾	成	竹	竹	林	曲
芳	麻	麻	庫	曲	虎	竹	林	林	幸
義	十	常	悪	佐	佐	次	三	七	十
桂	関	老	佐	彩	佐	衣	三	七	十
桂	石	桂	桂	石	桂	小	小	小	小

木は木性の人は木性の人は金性の人は土性の人は水性の人は金吉

康和賀郎